

京都府次世代自動車インフラ整備ビジョン

京都議定書の地・京都のビジョンは、道の駅、高速道路SA・PA、高速道路IC周辺などを中心に急速充電器及び普通充電器を府内629カ所に設ける。

京都議定書の街が真摯にめざす EV・PHV普及率を全国最高水準に!



グリーンロードモータース(GLM)が販売するEVスポーツカー「トミーカイラZZ」



① EV・PHVのタクシー、レンタカーで寺院、神社、食事施設、観光・体験施設を訪れた人に限り、京都府が主導・調整する「京都EV・PHV物語」だ。② 走行中に充電できる発電機とリチウムイオン電池を搭載。いつでもどこでも使用できるEV用急速充電器付きのロードサービス車「Q電丸」を開発したモビリティープラスの三輪社長③ 上原成商事が京都市内で無料開放中の「EV充電ステーション」④ 京都ホテルオークラではEVレンタカー付き宿泊プランを上原成商事と提携し、販売する

現状

理想は全国最高水準

2013年3月時点での府内でのEV・PHV導入台数は1050台。一般公開されている急速充電器は42基だが、普通充電器の設置基数については調査中。しかし全国最高水準をめざす理想は高い。

目標

2013年度までEV5000台

アクションプランでは2013年度までにEV・PHV5000台普及が目標。充電インフラについては同時期まで急速充電器50基、100V・200Vコンセント7000基の普通充電設備を整備するという目標を設定。

京

都縦貫自動車道が名神高速に今年接続し、来年度には「京丹波わちーC・丹波ーC」が完成予定で、いよいよ府内を南北に貫く高速道路の「背骨」が通る。それを踏まえ、2013年4月策定の京都ビジョンには「電欠なき京都」構築をめざす理想的な府内充電インフラ案が描かれている。

京都議定書の地として世界的に知られる京都では2009年に全国初のEV・PHV普及に特化した電気自動車条例を制定。以来、産学官連携の協議会による検討や、仏教会や神社、食事観光施設等の理解と協力のもと、EV・PHVのタクシー やレンタカー利用の観光客への

優待制度「京都EV・PHV物語」を推進。関西広域連合での「EV・PHV写真コンテスト」なども実施し、多彩な取り組みを重ねてきた。

5年間の时限立法の同条例がラストイヤーを迎えるEVの新産業創出に変化が現れてきた。なかでも注目なのが、EVスポーツカー「トミーカイラZZ」を公道で走れる市販車として特許を取得したグリーンロードモータースや、タイヤロードサービス車にEV用急速充電器を搭載した「Q電丸」を開発したモビリティープラスだ。こうした元気なEV関連の民間業者が、EV関連メーカーの集積地・京都の地の利を生かして登場している。

今後の展望

めざすは「電欠なき京都」

今年度策定のビジョンで、府内を南北に貫く高速道路や幹線道路沿いを中心に、今後充電インフラが補強される見通し。順調に整備が進めば「電欠なき京都」が実現しそうだ。

利用者の視点

京都議定書の街に最適

京都議定書の街として世界的有名な京都は、観光スポットが市内に多くEVでも観光しやすいのが特長。「EVのタクシーやレンタカーは静かなので、竹林の音など京都らしい自然を感じられてよい」と好評。

語」を推進。関西広域連合での「EV・PHV写真コンテスト」なども実施し、多彩な取り組みを重ねてきた。

5年間の时限立法の同条例がラストイヤーを迎えるEVの新産業創出に変化が現れてきた。なかでも注目なのが、EVスポーツカー「トミーカイラZZ」を公道で走れる市販車として特許を取得したグリーンロードモータースや、タイヤロードサービス車にEV用急速充電器を搭載した「Q電丸」を開発したモビリティープラスだ。こうした元気なEV関連の民間業者が、EV関連メーカーの集積地・京都の地の利を生かして登場している。

このほか、京都ホテルがEVを利用。さらに、府内のEV充電ステーションの利用率が上昇傾向になるなど、新たなEV需要の創出を予感させる動きにも注目したい。

日本初の「EV条例」制定以降の観光連携や産学官連携の動きを経て、EV関連の民間活力、いよいよ胎動!